

いいだ人形劇センター講座の検証

京都女子大学発達教育学部児童学科教授

いいだ人形劇センター理事 調査研究部会 松崎 行代

1. 目的・方法

本研究は、特定非営利活動法人いいだ人形劇センター（以下、人形劇センターと記す。）開設10周年を前に、9年間にわたる「人形劇のまちづくり」への取り組みの成果検証の一環として、人形劇創造事業として実施してきた講座に焦点をあて、記録を整理するとともに成果および課題の検証を行うことを目的とする。

研究にあたり、人形劇センター事務局が作成・保管している講座に関する各種資料より、講座の画用および参加者の実態をまとめ整理する。あわせて、講座の見学および講師や事務局職員への聞き取りを行う。また、受講生へのアンケート調査を行い、「人形劇のまちづくり・ひとづくり」における講座の成果を分析する。

2. いいだ人形劇センターの役割と講座について

1) 人形劇センターにおける「講座」の位置づけ

・いいだ人形劇センターの目的

市民と人形劇に関わる人たちに対して、人形劇に関する事業を行い、市民文化と人形劇文化及び飯田地域全体の活性化を寄与すること。

・講座の位置づけ

上記の人形劇センターの目的を達成するために設定された7つの事業の1つ「人形劇創造事業」に位置づく。人形劇創造事業は、講座や講演など人形劇の学びの場を提供し、人形劇を演じる活動の充実をはかることをねらって実施される。

2) 講座の種類と実施の記録

① 講座の種類

9年間に実施された講座は、大別すると以下の5つ。人形劇の種類やレベル、受講対象者、内容など、多岐にわたる。

実技系：【人形劇講座】【フィギュア・シアター講座】【人形アニメーション講座】：(定期開催)

【イベント併催ワークショップ】：(単発開催)

講座系：【講演会・講座】

② 実施の記録

表1：9年間の講座の記録

区分	講座	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
人形劇講座	初級講座		1団体10人							
	初級コース			4人	16人	14人	9人+1団体8人	7人+1団体8人	1団体8人	1団体8人
	中級コース			身体訓練：10人 人形遣い：11人	前期：11人 後期：1人	3団体（1人・5人・7人）12人	3団体（10人・7人・4人）21人	3団体（10人・7人・3人）23人	3団体（3人・3人・1人）7人	3団体（3人・3人・1人）7人
	ユースクラブ				2人	4人		8人	6人 短期講座：2人	2団体（3人・10人）13人
	人形劇ワークショップ	Ⅲ期：19人	Ⅲ期「人魚姫」稽古：27人							
	人形劇センタープロデュース「人魚姫」公演			13人				17人	28人	20人
フィギュア・シアター講座	基礎レッスン	インプロビゼーション：14人 三人遣い：19人		布安戯：14人 身体訓練：10人	身体訓練：10人	身体訓練：28人	身体訓練：22人	身体訓練：16人	身体訓練：13人	
	フィギュア・シアター 巨大人形劇PJ		20人	35人						
人形アニメーション講座	アニメーションの作業場	上演会：20人 アニメ撮影：8人								
	こま操りアニメーション ナンバーワクトコース		11人	12人						
イベント併催講座	ダンボール獅子舞	(52組) 100人		81人	70人	38人	43人	33人	20人	57人
	三人遣い人形 お面づくり	20人 15人	50人		55人	45人	50人	50人		
講座・講演会	講座									
	講演	世界の人形劇を知る：23人	テロと日本の人形劇に触れる：20人		ペイビードラマ：5人 「父と暮らせば」読み解く会：20人	大人のための人形劇講座1「真と人形芝居」：7人	大人のための人形劇講座2「染・絵と人形芝居」：7人	大人のための人形劇講座3「特定機縁とからくり人形」(6名)		

③参加者

人数：定期的に開催された実技系【人形劇講座】【フィギュア・シアター講座】【人形アニメーション講座】3つの講座への9年間の実受講者数は、111名であった。

居住地：飯田市内：75名、飯田市以外の下伊那郡内：18名、飯田下伊那郡以外の県内：15名、県外：3名。

飯田市内 2：飯田市外 1で、市外からの参加者が3分の1を占めている。

年齢層：【フィギュア・シアター講座】【人形アニメーション講座】は20～40代（講座開催時）が多い。

【人形劇講座】は、20代もいるが、50～60代が多い。

アニメーションや巨大人形劇など現代人形劇のなかでも新しい人形劇文化に対しては、若者が関心を持つため、若年層の参加が多いのではないかと。

30～40代の仕事や子育てに忙しい世代の参加は少ない。この世代は、趣味や社会貢献活動として人形劇に取り組むのが難しいのではないかと。

④考察

➤ 9年間継続して開催されているのは、【人形劇講座】と【イベント併催ワークショップ】の2つ。

【人形アニメーション講座】は、2016年以降、開催されていない。川本喜八郎人形美術館に併設するいい大人形劇センターとして、川本が取り組んだ人形アニメーションを特別なものとして講座に位置付ける必要はないか。美術館利活用とあわせて考える必要はないか。また、人形劇アニメーションやフィギュアシアターは若者が関心を持ち参加していたことを考えると、子どもを対象とした舞台芸術としてのイメージの強い“人形劇”に関心を持つ人を広く受け入れていくためには、どんな内容の講座を開講したらいいかあらためて検討することも必要ではないかと。

➤ 9年間で実参加者数が111名という数字をどうみるか。

➤ 〈人形劇講座 初・中級コース〉は、2020年以降、新規受講生がいない。2020～2021年度はコロナ禍であったことが影響しているだろう。

3. 【人形劇講座】の各講座の概要と9年間の記録

1) 〈初級講座〉〈初級コース〉〈中級コース〉〈基礎レッスン〉

①各講座の概要

〈初級コース〉

- ・初心者か、人形劇をつくり上演するまでのすべての過程をプロの講師または人形劇経験者から学ぶ。受講生が1人から数人のチームに分かれ1作品人形劇をつくる。職場や地域活動に取り組む数人が、具体的な上演目的をもって参加するケースもある。
- ・講座終了にあたり、成果発表として上演を行う。事務局が、人形劇定期公演を中心に上演の場を設定する。
- ・講師は、くすのき氏、吉澤氏、関島氏、木田氏、北林氏
- ・受講終了後は、成果発表として定期公演等で上演を行うこととしている。
- ・受講料：1人1ヵ月1,000円

〈中級コース〉

- ・〈初級コース〉修了者によって結成された人形劇団や、既存の市民アマチュア人形劇団が受講し、プロまたは人形劇経験者の講師により新作づくりや既存作品のブラッシュアップを目指す。
- ・センター主催の定期公演、劇団に依頼のあった地域での公演、いい大人形劇フェスタでの上演など、各劇団の上演予定にあわせて、その都度、受講を希望するケースにも対応している。
- ・講師は、くすのき氏、吉澤氏、関島氏、木田氏、北林氏

〈基礎レッスン〉

- ・人形劇の操演に取り組むための身体訓練やインプロビゼーション、エチュード、マイムなどを行う。人形劇「人魚姫」に取り組む受講生を中心に受講。
- ・講師は、ましゅ&Kei。

- ・受講料は、2017年度より4回分2,000円の回数券制度を導入。
基礎レッスンの意味は大きいですが、受講者が少なく、講師の提案により2020年度をもって中止となった。

②9年間の各講座の記録

表2：〈初級講座〉〈初級コース〉〈中級コース〉〈基礎レッスン〉の記録

		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
初級講座	参加者		・慈光幼稚園「きらきら座」：10人			
	内容		期間：5月～1月20回 目的：1月の園内での上演に向けて人形劇制作・演技稽古。 講師：吉澤、くすのき			
初級コース	参加者			・4人 Oさん：八王子より参加 2回目以降辞退3名。1名は僧侶。仏教の教えを人形劇でと考えたが、住職の許可が得られず中止。 1名は、沢シニア参加者。できないと感じ、辞退。	・16人 ふくまつ堂：2名 ウイルスバスターズ：下伊那の看護師 5名 西中人形劇クラブ：2名 ふたご座：シニア大学受講生。7月より。3名	・14人 すずらん：10名 阿智村の劇団 エリユリ：2名 主婦（保育士） 猫尻からSさん：10月で終了
	内容			期間：5月～10月 14回 講師：吉澤 内容：人形劇の制作、演技稽古。10月の人形劇定期公演にて制作した人形劇「ぶんぶく茶釜」を上演。	期間：5月～3月 7月～ 回数：74回 内容：人形劇の制作、演技稽古。 ・ふくまつ堂「密林-きれいなひょうの話」2月のりんごっこ劇場、3月の人形劇定期公演で上演。 ・ウイルスバスターズ「手洗いでバイキンたちをやっつけよう」 講師：吉澤・くすのき	期間：5月～2月 51回 内容：チームで人形劇を制作、演技稽古。 ・すずらん「おおきなかぶ」。12月の定期公演にて上演。 ・エリユリ「ぐりとぐら」。1月に飯田子ども劇場の冬のお楽しみ会で上演。2月の人形劇講座成果発表会でも上演。 ・Sさん「サウンドオブミュージック」。所属する合唱団の定期演奏会で合唱にあわせて操演した。 講師：吉澤・くすのき
中級コース	参加者			・身体訓練：10人 ・人形遣い：11人	・前期：11人 ・後期：1人	・前期：1名 前沢 ・後期：12名 でんでんむし7人 ふたご座5人
	内容			身体訓練 期間：4月～2月 15回 内容：「人魚姫」のメンバーを中心としたレベルアップ講座。 講師：ましゅ・Kei 人形遣い 6月～7月 2回 講師：吉澤	前澤道子「尾料の文吾」 期間：5月～3月 22回 内容：沢シニアで制作した人形劇作品を一人芝居につくり直す。 講師：吉澤 受講料：3カ月1,000円 雲林チーム「北風と太陽」 期間：5月～10月 39回 内容：台湾雲林フェス（10月）での公演に向けた作品制作、演技稽古。 10月の人形劇定期公演上演のための稽古。 講師：吉澤、くすのき、ましゅ&Kei	前澤道子 期間：4月～7月 9回 内容：「尾料の文吾」人形制作 講師：吉澤 でんでんむし 7人 期間：10月～3月 12回 内容：「おたまじゃくし海へいく」人形劇制作、演技稽古。 「いたずらねずみ」台本の読み解き。 基礎訓練。インプロ 講師：吉澤、ましゅ&Kei ふたご座 期間：6月～3月 22回 内容：人形劇制作 講師：くすのき
基礎レッスン	参加者	・インプロ：14人 ・三人遣い：19人		・布袋戯：14人	・身体訓練：10人	・身体訓練：28人
	内容	インプロビゼーション 期間：11月 3回 受講料：無料 三人遣い 期間：1月 3回 受講料：無料		期間：3月 4日間 内容：布袋戯の操演方法。最終日に人形劇場で上演。 講師：チャンチンホイ 受講料：2,500円。中級コース受講生は1,000円	期間：4月～3月 21回 内容：身体訓練 参加者：「人魚姫」メンバー中心。巨大PJ1名。述べ10人の参加者だが、毎回数名。 講師：ましゅ&Kei 受講料：1カ月1,000円	期間：4月～3月 44回 内容：ストレッチ、柔軟、身体訓練、エチュード、マイム 参加者：人魚姫メンバー、ユースメンバー。毎回1～3人 講師：ましゅ&Kei 受講料：回数券4回分2,000円導入。（回数券により参加促進を図る。）

2018年度	2019年度	2020年度	2021年 (R3)
<p>・17名 喜隣：4名 伊那市より。施設職員 くまっこや一座：3名 松川村より。 なかがた座：1名 飯田市議 Kさん：途中から欠席 ころぼっくる8人：飯田養護学校卒業生6名・ 教員2名 10月～</p>	<p>・7人 シアター奇望堂：1名 Sさん：飯田市図書館司書 Mさん親子：2名 小3女兒と母 ・ころぼっくる8名</p>	<p>・8名 ころぼっくる</p>	<p>・10名 ころぼっくる</p>
<p>期間：5月～3月 38回 内容：チームで人形劇を制作、演技稽古。 ・喜隣「こぶとりじいさん」 ・くまっこや一座「おおきななぶ」 ・なかがた座「サンパ・ショー」。「サンパ ショー」は、3月の定期公演で上演。 ・Kさん「ゆかいなCW」 講師：吉澤・くすのき ・ころぼっくる 期間：12月～3月 10回 内容：制作作品を「一休さん」とし、場面構 成、人形制作までに取り組み。 講師：木田</p>	<p>新規7名 期間：5月～1月 33回 内容：チームで人形劇を制作、演技稽古。 ・奇望堂：一人芝居制作 ・Sさん：「なかよし」ライオンとネコで。 ・Mさん親子：羊毛フェルトでアルパカの人 形制作。「なかよし」をもとに、人形遊び風 作品。 ころぼっくる 期間：4月～6月 5回 内容：4月2回：人形制作。6月～「一休さ ん」台本読み、抜き稽古。9月人形劇定期公演 にて「一休さん」上演。 期間：11月～2月 11回 内容：9月定期公演上演のビデオ鑑賞。新作 「ももたろう」制作を開始。場面を考える、 人形制作。 講師：木田</p>	<p>期間：6月～3月 25回 内容：「ももたろう」作品制作、演技稽古。6 月～8月制作中心。7月～演技稽古中心。12月 の定期公演で上演予定だったが、中止。 (2021フェスタでの初演に変更) 講師：木田</p>	<p>期間：4月～11月 24回 内容：「ももたろう」人形劇制作。4月稽古再 開。12月の定期公演にて上演。 講師：木田</p>
<p>・ふたご座：3人 ・でんでんむし：7人 ・すずらん：10人</p>	<p>・くまっこや一座：3人 ・でんでんむし：7人 ・すずらん：10人 ・ふたご座：3人</p>	<p>・喜隣：1人 ・ふたご座：3人 ・くまっこや一座：3人</p>	<p>・くまっこや一座：3人 ・ふたご座：3人 ・でんでんむし：6人 ・なかがた座：1人</p>
<p>ふたご座 3人 期間：4月・2月 4回 内容：4月定期公演に向けた稽古 講師：くすのき でんでんむし 期間：5月～3月 22回 内容：「おたまじゃくし海へいく」人形劇制 作再開。 「いたずらおばけケンムン」台湾雲林フェス での公演に向けた稽古。中国語のせりふ練 習。 期間：1月～ 内容：人形劇「おたまじゃくし海へ行く」制 作再開 講師：くすのき、吉澤、酒井（中国語） すずらん 期間：5月～2月 17回</p>	<p>くまっこや一座 2人 期間：10月～3月 10回 内容：人形劇「3びきのやぎのガラガラド ン」制作（完成目標2020年9月）。人形制 作：粘土・石膏かけ・はがし・貼り子貼り合 わせ 講師：吉澤 でんでんむし 7人 期間：4月～5月 5回 内容：人形劇「おたまじゃくし海へいく」小 道具制作 すずらん 8人 期間：5月～1月 10回 内容：「3びきのこぶた」制作、上演稽古。 5月～人形・小道具制作。10月～稽古 講師：吉澤、くすのき ふたご座 3人 期間：4月・2月 4回</p>	<p>喜隣 1人 期間：2～3月 3回 内容：人形制作 講師：吉澤 ふたご座 3人 期間：10月～3月 15回 内容：人形劇「ぶす」稽古。人形劇「お日さ ま・お月さま・夕立さま」人形チェック・ 台本確認、稽古。3月定期公演で上演 講師：北林 くまっこや一座 3人 期間：6月～3月 11回 内容：人形劇「3びきのやぎのガラガラド ン」人形制作：張り子、うなずき。舞台装置 制作 講師：吉澤</p>	<p>くまっこや一座 3名 期間：4月～12月 12回 内容：人形劇「3びきのやぎのガラガラド ン」制作、上演稽古。4月～10月人形制作。 11月～上演稽古。 講師：吉澤、くすのき ふたご座 3人 期間：4月～11月 11回 内容：4月：上演に向けての稽古。6～7月： 人形劇「お日さま、お月さま、夕立さま」 フェスタ上演に向けての稽古。10月：人形劇 「ぶす」10月の定期公演のための稽古 講師：北林 でんでんむし 6人 期間：5月～10月 11回 内容：人形劇「おたまじゃくし海へいく」10月 定期公演に向けての稽古 講師：くすのき なかがた座 1人 期間：10月～12月 4回 内容：人形劇「しっぽのつり」の制作 講師：くすのき、吉澤</p>
<p>・身体訓練：22人 期間：4月～3月 46回 内容：身体訓練 参加者：4・5月は毎回6～7人に参加あり。6 月以降1～2人などまたごく少数に。しかし、 全体的にみると参加者増加。 講師：ましゅ&Kei</p>	<p>・身体訓練16人 期間：4月～2月（7・8月休講） 21回 内容：身体訓練 体幹 講師：ましゅ&Kei 参加者：「人魚姫」のメンバー中心。4人以上 出席の回が多くなる。回数券利用。</p>	<p>・身体訓練13人 期間：6月～3月 23回 内容：身体訓練 ダンス 講師：ましゅ&Kei 受講生：各回3～6人</p>	<p>・実施なし 講師でセンター理事のKeiさんより、センター 理事会にて、参加者が少ない現状から本講座 を中止する提案があり、承認された。</p>

*各年度の各講座の参加人数とチーム別人数の合計が合わないものがある。チームや劇団で1回のみ参加や上演の手伝いなども人数にカウントしたためではないか。

*中学校人形劇部の参加は、初級コースとして扱っている。後述のユースクラブとの一貫性がない。

③講座の運営

会 場：基本的に、飯田文化会館：工作室、会議室等。飯田人形劇場。

開 催 時 間：受講者の都合に合わせてチームごと曜日や時間を設定して開催する。

事務局の対応：各チーム・人形劇団ごと開催し、各講座に講師とあわせて事務局1名は必ず毎回同席し、準備・片付け、受講料の徴収、事業報告書の作成など、講師の補助業務に携わる。

④9年間に誕生した劇団・作品

表3：新たに誕生した劇団と作品

初参加年度	劇 団	人数	参加理由・取り組みの様子・感想など	その後の受講・活動状況	作 品
2015年度	(Oさん)	1名	人形劇を学びたい。近隣で人形劇を学べる場が見つからず、飯田市まで自家用車で往復。 2015年：センターの講座から誕生した3作品の連続公演に上演。 その後、フェスタにも数年間参加。	1年のみ受講。	「ぶんぶく茶釜」
2016年度	ふくまつ堂	2名	短大での学生指導のため。 人形劇への関心。 りんごっこ劇場ほかで上演。	1年間のみ受講。 Fさんが引越し、その後の劇団活動はない。 Fさんは、読み聞かせの会などで修得した人形劇を活かしている。	「密林ーきれいなひょうの話」
	ウイルスバスターズ	5名	飯田・下伊那の病院に勤務する感染症を専門とする看護師のグループ。 子どもたちに感染症予防を呼びかける人形劇作品を制作したい。 伝え方はいろいろあるが、飯田に住む我々だからこそ人形劇でやってみようと考えて、講座に参加した。（『Dogushi』15より） フェスタ2018にて「講座から生まれた作品の連続公演」にて上演。西中・すずらん・きらきら座・ふくまつ堂・ふたご座・エリユリとともに上演。	1年のみ受講。	「手洗いでバイキンたちをたちをやっつけよう！」
	ふたご座	3名	シニア大学でい大人形劇センターの講座について知り、興味をもった。長野県シニア大学飯伊学部。60歳代3名。 2016年初級コース：「お日さま、お月さま、夕立さま」制作。方言を取り入れた。あななるほど、と思わせるオチで笑える工夫をした。同世代から子どもたちまで観客の反応が良かった。（Mさん談） 2017年後期：中級コースに参加。2作目「くわんくわん」制作。 台詞を覚えるのは一苦労だった。しかし、人形劇はやってみると楽しい。1作目の「お日さま、お月さま、夕立さま」では、演じたときの観客の反応が楽しくて、一回、もう一回と演じたくなった。（Mさん談） 最初は人形を作ってみたくてという気持ちで始めたが、やってみると人形劇は奥が深い。稽古のた	継続し、2017年度以降は中級コースを受講。 中級コースへの参加は、新作づくりおよび既存の作品のブラッシュアップのため。	「お日さま、お月さま、夕立さま」 中級コースへの参加は、新作づくりおよび既存の作品のブラッシュアップのため。 「くわんくわん」 「ばたもち和尚さん」 「ぶす」
	雲林チーム	3名	2016年台湾雲林フェスティバルにて上演のため作品制作と稽古。「人魚姫」のメンバーの3名。 2月のりんごっこ劇場でも上演。	1年間のみ受講。	「北風と太陽」
	(ユースクラブ)	2名 その後 4名に	2016年：初級コース参加し、「なかよし」制作・上演。 あわせて、巨大人形PJ「さんしょうお」に参加。2017フェスタで上演。 2017年：2人で新作「恋する河童くん」の制作に取り掛かる。1名が脚本担当。もう1名が美術担当。	高校卒業後は活動は劇団としての活動はなし。 「人魚姫」に参加したメンバーがいる。	「なかよし」 「恋する河童くん」
2017年度	エリユリ	2名	講座で出会った子育て中のお母さん2人組。子どもたちに喜んでもらえるかわいい作品にしたいと考え、「ぐりとぐら」の人形劇づくりに取り組む。 「ぐりとぐら」という幼いころから親しんだ大好きな絵本の世界を人形劇で表現できることにわくわくした（Kさん） 5月～台本作り、人形制作、稽古～2月定期公演で成果発表 ちょうど1年前に定期公演で子育て中のお母さん方が人形芸をやっているのを見て、私にもできるかなと思った（Sさん） 人形劇は観るのも楽しいけれど演じることも楽しい。（『Dogushi21』より）	エリユリとしての劇団活動は、1年間で、活動を一旦休止。 2018年度より、2人とも、「人魚姫」の再演に参加。2021年度まで。 初級コースで作った作品を上演するうちに演じることが楽しくなってきた。ちょうど再演の話聞き参加した。少しでも経験を積んで次の作品作りに活かしたい。（『Dogushi26』より）	「ぐりとぐら」
2018年度	ENGI家喜隣	4名	勤務する伊那市の障がい者施設で、利用者とともに上演したい。 そのためには、まず自分がやってみないとと思い講座に参加した。「こぶとりじいさん」を制作。（『Dogushi22』より） いづれ施設に通う子どもたちと一緒に人形劇を上演したいという思いから、まず自分が体験したいという思いで参加した。 建築学を学んだ経験から人形・舞台美術は、講師が太鼓判を押す。（『Dogushi24』より）	継続し、2020年度に中級コースを受講。	「こぶとりじいさん」
	くまっこや一座	当初1名。 一人芝居は高い技能が必要なので仲間を増やし、3名に、	松川村より参加。ボランティア活動での上演を目指して。高齢者。公共施設で読み聞かせなどのボランティアをするなかで、人形劇を上演したいと思い、講座に参加した。当初は一人芝居の人形劇づくりをしていたが、ボランティア仲間の協力を得て3人で上演することにした。「おおきなかぶ」（『Dogushi24』より） 2019年度は、中級コースにて、初級での学びを活かし、人形作りや演出などアイデアを持ち寄り制作中。「3びきのやぎのらがらどん」 いつまでも元気に暮らすシニア世代の居場所づくりをしたいと考えていた。安曇野ちひろ公園で活動するボランティアスタッフの仲間たちとくまっこや一座というグループを作り、一緒にできるものを求めていた。一緒にいる仲間がいると張り合いが出る。飯田まで通うのは時間がかかるけれどそれには代えられない充実感を味わっている。（Mさん談） 人形を作るのになぜ設計図が必要かと思っていたが、作り進めるうちに人形ができていく工程がとても興味深い。（Hさん談）	活動し、2019～2021年度中級コースを受講。	「おおきなかぶ」 「3びきのやぎのらがらどん」
	なががた座	1名	フェスタのスタッフをやっていた。 ものづくりに興味があり、人形劇のまじに住むなら人形劇を体験しようと思った。地元で催し上演できる短い作品を制作して上演した。「サンパショー」（『Dogushi24』より）	継続し、2021年度は中級コースを受講。	「サンパショー」
	ころぼっくる	8名 その後 10名	飯田養護学校の卒業生と教員が、卒業後も人形劇活動を継続したいと考えて受講。 初級コースに参加し、ものをつくる楽しさだけでなく、上演までの課程を協働して行うことの大切さを学んだ。みんなで稽古しているときがとても楽しい。続けているうちに人形の動きがし方やセリフの言い方を工夫できるようになった。（Yさん談） 2019年フェスタで上演し、もっと上演したくなり、再び初級コースを受講。2作目を制作。さらに、活動の様子を知った同級生が4名加わり10名に。 彼らが安心して創作活動を続けられるように教員がサポートし、ともに活動している。それぞれ得意なことを活かして表現することを楽しんでいる姿が見られてうれしい。（教員談）	継続し、2019年度以降2021年度まで初級コースを受講。	「一休さん」 「新もたろう」

2018年度	シアター奇望堂	1名	オリジナル脚本で一人芝居に挑戦。（「Dogushi28」より） 3月定期公演で成果発表	人形劇の活動継続。	「起きろ」
	(Sさん)	1名	飯田市の図書館司書が図書館のお楽しみ会で人形劇を上演したいと一念発起。人形劇の定番「なかよし」をライオンのタイムくん、ネコのニャンタくんまで演じる。（「Dogushi28」より）		「なかよし」

表4：既存劇団で受講し新作を制作した劇団

初参加年度	劇団	人数	参加理由・取り組みの様子・感想など	その後の受講・活動状況	作品
2013年度	慈光幼稚園きら座	10名	幼稚園のPTAサークルとしての劇団。新作づくり、技術習得。	1年のみ受講。 毎年メンバーは入れ替わる。	「おたまじゃくしの101ちゃん」
2017年度	すずらん	10名	阿智村の元保育士らで結成。譲り受けた人形を使って自己流でやってきたが、プロの指導を受けて作品が作れたらいいと思っていたため講座に参加した。 繰り返し上演できる自慢の作品になりそう。 2017年5～6月「おおきなぶ」を制作。満足できた。11月から村内の保育所で上演した。12月の定期公演で成果発表。かぶを抜くとき、子どもたちが「うんとこしょ、どっこいしょ」と声を掛けてくれるのがうれしい。新作も作りたい。人形の動かし方、台詞の言い方など、稽古を重ねてあちこちで上演したい。（「Dogushi19」より） 2018年新作づくり。譲り受けた人形に手を加え、大道具は新たに制作。「さるとかに」（「Dogushi24」より） 2019年新作づくり。「3びきのこぶた」	継続し、2018・2019年度は中級コースを受講。	「おおきなぶ」 「さるとかに」 「3びきのこぶた」
	でんでんむし	7名	伊那市中心に上伊那、飯田市在住のメンバー7人。 H10に結成。自作の大型紙芝居を上演していたが、2012年ごろからレパートリーを増やそうと人形劇にも取り組んだ。人形劇を始めるとあちこちから声がかかり、上演回数が増加した。飯田人形劇フェスタにも、2014年から参加している。 すべて自己流でやってきたので、プロに教えてもらいたいと考えて講座に参加した。（「Dogushi16」より） 年間60回ほど公演を行っている。プロの指導を受けながら、じっくり作品作りをしたい。2017年10月～「おたまじゃくし海へ行く」の人形制作。 1月～舞台に立つためのカラダづくり。発声、人形操作、カラダの使い方など。自分たちも鍛えたい。（「Dogushi20」より） 2018年10月台湾雲林フェスティバルに参加。「いたずらおぼけケンメン」を中国語で4回公演。	継続し、2018年度以降は中級コースを受講。	「いたずらおぼけケンメン」 「おたまじゃくし海へ行く」

- ・〈初級講座〉〈初級コース〉〈中級コース〉よりあらたに誕生した劇団は、表3のとおり13の劇団を数えた。あわせて20以上の作品が生み出された。

⑤考察

- 初級コースでは、講座終了時になにかしらの発表の場を持つことを課し、多くが人形劇センターの「人形劇定期公演」の場で制作した人形劇の上演を行う。事務局がその上演の場の設定まで対応していることで、受講生は観客がいて成り立つ舞台芸術・人形劇の完成を体験でき、その満足感と喜びを感じることができる。
- 初級コースでは1人から数人のチームにわかれて1作品人形劇をつくることとし、講座はチームごと実施される。講師にとっては大変なことだが、受講生は自分たちのチームのみに丁寧にかかわってくれる指導体制に満足していることが、受講生へのアンケート（詳細は、後述する。）からも明らかである。しかしながら、講師および事務局の負担減などを合わせて考えると、いくつかのチームが一緒に受講することで、受講生同士が学び合いチームが刺激を受け合う学びがもたらされるのではないかと。
- くすのき氏は、人形劇は簡単にできるものではなく確かな技術が必要だと考え、そこを指導のポイントとしている。また、脚本（作品）制作は自分たちがやりたいものに取り組んでもらう。ただし、脚本がきちんとしていないと観客を惹きつける人形劇は出来上がらないということもあり、悩む点でもあるとのこと。
- 講座を通して、人形劇の技術や専門的知識の習得とあわせ、どんなひとを育てたいのかを考える必要があるのではないかと。単なる人形劇技術の習得や向上だけではなく、人形劇という活動を通して社会につながる喜びや、社会への関心の拡がりによる飯田市への関心や地域活動への積極的な参加、各自の得意分野を活かすことでの自己実現などといった“ひとづくり”が、人形劇活動を通してもたらされると考えられる。
そういったことを目標として重要視した場合、講座の内容および進め方、事務局はどこまで援助したらいいのかといったことまでふくめて検討してみてもいいのではないかと。

2) 〈ユースクラブ〉

①講座の概要

- ・中・高生を主な受講対象者として開講。専門的知識を持つ指導者がいない中学校の人形劇部の生徒たち、また、人形劇に取り組みたい高校生が学校を越えて参加し、新作づくりから上演までに取り組む。
- ・講師は、くすのき氏、吉澤氏、関島氏

- ・受講料は、1人1ヵ月500円。

②9年間の記録

表5：〈ユースクラブ〉の記録

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
参加者				・2人 旭中卒業で別々の高校に進学した高校生。	・15人 高校生4名。その他11名は、応援として「人魚姫」「さんしょうお」のメンバーが参加。	なし	・8人 鼎中人形劇部	・6人：鼎中人形劇部 ・短期講座：2人 中学生	・東中人形劇部：3人（内、顧問1人） ・鼎中人形劇部：10人
ユースクラブ内容				期間：5月～3月 12回 内容：発声等の基礎練習。 人形劇「なかよし」を稽古し、その後、照明効果もねらった人形劇作品づくりに取り組む。 講師：くすのき、吉澤	期間：4月～3月 45回 うち2回はフェスタのパレードと上演。 内容：人形劇「恋する河童くん」制作。脚本制作、人形制作、演技稽古。3月に「いいだ人形劇5年田ーユースクラブ新作発表会」として人形劇場で上演。 12月：山本公民館図書分館クリスマス会にて「なかよし」上演 講師：くすのき、吉澤 脚本は、何度も書き直し完成させた。 巨大人形劇PJ「さんしょうお」にも参加。 応援メンバーは脚本や小道具の制作の指導、および、発表会の際の音響担当などに携わる。		期間：12月～1月 3回 鼎中人形劇部の 6人 期間：7月～10月 20回 内容：人形劇作品の創作。鼎中文化祭で上演。10月定期公演で上演 講師：くすのき（数回はリモート指導）、吉澤 短期講座 2名 期間：11月～3月 13回 内容：「人形をつくっておどる」差し金棒使い人形の制作、操演方法、演技。3月定期公演で上演 講師：吉澤、関島	飯田東中人形劇部 3人 期間：5月～11月 18回 内容：人形劇「三びきのやぎのらがらどん」制作。台本制作、人形制作、稽古、成果発表。フェスタで上演。 講師：関島、くすのき、吉澤 鼎中人形劇部の 11名 期間：5月～10月 17回 内容：人形劇「にやんにやん学園大運動会」制作。台本制作、人形制作、成果発表。 講師：くすのき、吉澤、関島	

③講座の運営

開催時間：受講者の都合に合わせて曜日や時間を設定して開催する。

事務局の対応：講師とあわせて事務局1名は必ず毎回同席し、準備・片付け、受講料の徴収、事業報告書の作成など、講師の補助業務に携わる。

④考察

- 中学校の人形劇クラブの講座への参加は、〈初級コース〉であったり〈ユースクラブ〉であったりと、統一していない。
クラブ活動として〈ユースクラブ〉を活用できるのは、会場となる人形劇場や文化会館に近い学校のみとなる。学校への講師派遣は、地理的な不平等さはないが、クラブの指導としてユースクラブを行っているとなると、遠方の学校の子どもたちには不平等な対応ではないか。
- 〈ユースクラブ〉を設置した本来の目的はなにか。また、中高生の幅広い参加を得るためには、その下準備として取り組むことがあるのではないか。

3) 〈人形劇「人魚姫」〉

①講座の概要

飯田文化会館が2010年に開始した事業「人形劇ワークショップ」をいいだ人形劇センターが引き継ぎ、その第Ⅲ期においてプロと共に市民がつくりあげる人形劇「人魚姫」（脚色・演出：くすのき燕）を制作し上演を行った。

再演は、くすのき氏からの提案がきっかけとなった。くすのき氏は、2018年度に〈巨大人形劇PJ〉の「さんしょうお」公演が終了し、センターが沢氏による【フィギュア・シアター講座】に一区切りをつけたことを受け、これにかかわっていた若いひとたちの受け皿が必要ではと考えた。結果的には、「さんしょうお」に参加していた人の「人魚姫」への参加は1名であった。

その後、「人魚姫」はいいだ人形劇センタープロデュース公演として公演活動を展開することとなり、稽古に取り組む場として講座を実施。

- ・講師：くすのき氏、吉澤氏、ましゅ&Kei、関島氏。
- ・受講料は、人形劇ワークショップは、1人1ヵ月2,000円。プロデュース公演となつてからは、1人1ヵ月1,000円、学生は500円。

②9年間の記録

表6：〈人魚姫〉の記録

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
人形劇ワークショップ *2010年11月より飯田文化 会館事業として開始。	・ Ⅲ期 (10～3月) : 19人	・ Ⅲ期人魚姫 (4～3月) : 27人					
センタープロデュース			・ 第1弾「人魚姫」稽古 : 13人 ・ 第2弾「おもちゃのお姫さま」制 作・稽古 : 6人			「人魚姫」再演プロジェクト : 17 人	「人魚姫」再演プロジェクト : 28人
講演・活動内容	インプロ (即興表現) : 11月 7回 歌唱、人形制作、海の中稽古 原作をもとに場面割り : 12月 3回 三人違い人形レッスン : 1月 3回 講師 : 今田人形座 世界の人形 (講演会) : 1月 1回 映像視聴 : 2月 1回 美術プラン作成・人形制作 : 2月～ 3月 6回	人形制作 : 4月～6月 13回 台本読み 6月 1回 人形制作 7月～10月 22回 演技稽古 10月～11月 6回 歌唱指導 11月 1回 美術制作 11月 2回 稽古・美術人形制作12月～3月 42 回 公演 3月 2回 (7・8日) *合計 上演を含め107回 反省会 3月 1回 (13日) *希望者多数で、フェスタにて再 演決定。 *基礎レッスンによりレベルアッ プを目指すこととする。	フェスタでの上演に向けて 5月20日～8月9日の上演まで40回 8月フェスタでの上演 : 鼎文化会館 にて 2回公演 180枚完売 台湾公演に向けて 8月23日から出発前10月6日まで、 練習 (中国語習得、荷造り等含 む) 16回 10月台湾雲林フェスタでの上演 4回 公演 1400人。閉会式パフォーマ ンス 500人。 帰国後、12月11日に報告会。その ための打ち合わせ3回。			2月7日 : 「人魚姫」を観る会 映像視聴。再演に向けての呼びか け、案内 参加者40名 3月8日 : 「人魚姫」再演に向けて 初回ミーティング 講師紹介、参加者自己紹介、本読 み、人形操作体験 3月18日 : 「人魚姫」再演プロジェ クト 第一・二場確認 3月23日 : 「人魚姫」再演プロジェ クト 第一場から本読み	「人魚姫」再演プロジェクト フェスタでの上演に向けて 4月～8月 53回 8月2日 公演 下条公演に向けて 芝居の基礎レッスン 8月～9月未まで 4回 ストレッチ・ミニストーリー作 り・エチュード 講師 : ましゅ&Kei 演技練習 10月～12月 21回 12月8日公演 1月 映像鑑賞 今後の活動につ いて話し合い

2020年度	2021年度
「人魚姫」ツアー2020 「人魚姫」ツアー2021に向けて 20人	「人魚姫」ツアー2021:19人
「人魚姫」ツアー2020に向けて 4月 : 2回 第一場より稽古 「人魚姫」ツアー2021に向けて 2月 : 1回 2021ツアーについて説明 3月 : 6回 長野県立美術館上演に向けての稽 古	「人魚姫」ツアー2021 県立美術館公演に向けて 4月 : 5回 場面ごと稽古 5月 : 10回 抜き稽古 6月 : 3回 鼎でゲネプロ 6月5日 公演 2回 飯島公演に向けて 6月 : 9回 6月20日 公演 1回 200人以上 フェスタ公演に向けて 6月～8月 : 稽古 11回 8月8日 公演 2回 250席完売 松川村公演に向けて 8月～1月 : 稽古 15回 1月12日 *公演中止 *人魚姫ラスト公演を3月21日に実 施することを決定 (中止)

③講座の運営

開催時間 : 受講者の多くが、社会人で仕事をしているため、講座は仕事終了後の夜の時間帯。

事務局の対応 : 講師とあわせて事務局1名は必ず毎回同席し、準備・片付け、受講料の徴収、事業報告書の作成など、講師の補助業務に携わる。

④考察

- 2010年度から始まった人形劇ワークショップでの学びの積み重ねと、受講生同士・受講生と講師のつながりの構築が、「人魚姫」という大規模作品の制作と市内外でのプロデュース公演の成功の要因になったと考える。
- 社会人の受講生にとって、仕事を終えた後に稽古に参加するのは大変なことが多々あったと思われる。こうした状況のなかで、センタープロデュース作品として一定のレベルを有する作品をつくりあげなくてはいけないことに対して、プロである講師と受講生との間に意識の違いがあったようである。また、受講生は講師の要求を理解していたとしても、それに対応できにくい個々の事情もあっただろう。講座の成果作品としての上演と、センタープロデュース作品としての公演は、意味が違うことへの認識が、最初から講師および受講生に十分理解されていただろうか。

- 「人形劇のまち飯田」を広く発信するのに「人魚姫」のプロデュース公演は、大きく貢献したといえる。市外の公演において完売が続き、観客のアンケートにも高評価のコメントが多かった。

(県立美術館公演のアンケートより)

人形操作、舞台美術、演出に関して素晴らしかったというコメントの他に、生きる糧になった、飯田への関心

などのコメントも数多く寄せられた。

- ・生の舞台を観ることができ感動した。
- ・明日からも頑張ろうと思った。
- ・亡くなった母を思い出し涙した。母も幸せな人生を送れたと思った。
- ・自分や家族を見つめ直す機会となった。
- ・飯田、人形劇フェスタへの関心を高めた。行ってみたい。

4. 【フィギュア・シアター講座】の概要と9年間の記録

①概要

- ・チェコを拠点に活動する沢則行氏を講師に、フィギュア・シアターを学ぶ「沢則行フィギュア・デザインコース」が2014年に開講。人形劇や舞台のスケッチ、図面、模型を制作し展示とプレゼンを行う。
- ・そのうちの1作品「おもちゃのお姫さま」を、2015年に人形劇センタープロデュース作品として公演。
- ・さらに、南信州を舞台に大型の人形劇をつくるプロジェクト「巨大人形劇プロジェクト in 南信州」として「さんしょうお」の制作に取り組み、2016年の人形劇フェスタでのデモンストレーションを経て2017年の人形劇フェスタにて完成作品を公演。
- ・その後、人形劇センターから独立し、参加メンバーで活動することとなる。
- ・講師：沢氏

②9年間の記録

表7:【フィギュア・シアター講座】の記録

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
沢則行フィギュアシアター・デザインコース	参加者		・20人	フィギュア・シアターデザインコース：35人 「おもちゃのお姫さま」制作・稽古：6人					
	内容		ワークショップ①8月2～4日 オリエンテーション&講義 ワークショップ②8月12～19日 美術プラン・人形・舞台模型の制作 ワークショップ③9月18～29日 個別指導 ワークショップ④12月12～14日 個人レッスン ワークショップ⑤1月7～11日 個別指導 成果発表&プレゼンテーション 1月10・11日 19人がプレゼン *計31回	フィギュア・シアターデザインコース 期間：5月～8月 25回 内容：個別指導 「おもちゃのお姫さま」制作・稽古 期間：5月～10月 30回 内容：「おもちゃのお姫さま」制作・稽古 フェスタ2015プレゼン上演 人形劇センタープロデュース公演(10月)					
巨大人形劇プロジェクトin南信州	参加者		・20人	・53人	・70人				
	内容		期間：9月～3月 10回 内容：「さんしょうお」制作	期間：4月～2月 155回 内容：「さんしょうお」制作・稽古 フェスタ2016でデモンストレーション公演 10回	期間：4月～10月 93回 内容：「さんしょうお」制作・稽古 フェスタ2017で公演 4公演				

- ・2018年度以降は、フィギュア・シアターに関する講座は実施されていない。

5. 【人形アニメーション講座】の概要と9年間の記録

①概要

- ・〈こまどりアニメーション パーフェクトコース〉は、飯田をPRするためのCMをこま撮りアニメーションの手法で撮影するワークショップ。
- 参加者全員がそれぞれテーマ・ストーリー・絵コンテを考え、そのなかから1つ選び参加者全員でアニメーション作品の制作に取り組んだ。
- 8月から取り組み4月に完成試写会を実施。作品は、水引工芸の内職をするおばあちゃんが嫁ぐ孫娘に水引でティアラをつくり贈るとい物語「想いを結ぶ 飯田水引 (3分36秒)
- ・講師：峰岸氏、杉木氏、合田氏、阿彦氏

- ・参加費：一般5,000円、高校生無料

②9年間の記録

表8：【人形アニメーション講座】の記録

		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
アニメーションの作業場	参加者	計157人								
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体験コーナー：2・3月に6日：129人 ・上演会：3月に1日：20名 ・アニメ撮影：3月に2日：8人 								
こまどりアニメーションパーフェクトコース	参加者		・11人	・12人						
	内容		期間：8月～3月：72回 内容：水引組合と連携し、アニメーションを制作。（絵コンテ～人形制作～撮影） 4月：完成作品上演会	期間：4月～9月 55回 内容：撮影、編集作業 8月：映像完成上演						

- ・2016年度以降は、人形アニメーション講座は実施されていない。

6. 受講生へのアンケート調査より

1) 調査について

①調査目的

受講生の受講理由、受講を通しての満足度、受講を通しての学びや育ちについて明らかにする。

②調査方法

- ・実施期間：2021年4月5日～5月2日
- ・実施方法：自記入式調査票にて回答。調査票は、人形劇センター事務局より郵送または手直接配布、回収返信用封筒にて郵送または事務局に直接提出。
- ・対象者：2013年度～2021年度【人形劇講座】【フィギュア・シアター講座】【人形アニメーション講座】の受講生合計111人
- ・配付数：111枚
- ・回収数：44枚（回収率：39.6%）
- ・有効回答数：43 無効回答数 1

2) 調査結果

①受講理由

表9：受講の理由

選択肢		N=43
		人
1	単純に人形劇に関心があり、やってみたくと思った。	20
2	地域の活動やボランティア活動で人形劇を演じたいと思った。	19
3	なにかやってみたく思っていたときに、たまたま人形劇講座のことを知って参加した。	14
4	いい大人形劇フェスタや人形劇定期公演で人形劇を演じているアマチュアの人たちを見て、自分もやってみたく、自分にもできるのではと思った。	11
5	いい大人形劇フェスタに、観劇参加だけではなく「劇人」として上演参加してみたくと思った。	11
6	「人形劇のまち」と言われている飯田市のまちの文化として位置づいている人形劇をやってみようと思った。	10
7	一緒になにかをやる友達づくりの場になるのではないかと考えて参加した。	10
8	自分の子どもや身近な子どもたちに、人形劇を観せたいと思った。	9
9	ものを作るのが好きなので、人形を作ってみたくと思った。	9
10	これまで自己流で人形劇に取り組んでいたのですが、プロの専門家の指導を受けてより良い作品づくりや上演ができるようになりたいと思った。	9
11	プロの人形劇人が講師をしてくれると聞き、プロの方と関わることが魅力的だった。	9
12	自分とは違うもの（役）になって演じることをやってみたくと思った。	8
13	ステージに立つ経験をしてみたいと思った。	7
14	人形劇をやる仲間が身近にはいなかったため、講座に参加することで劇団を作りたいと思った。	2
15	その他	2
16	職場で人形劇を演じたいと思った。	1
17	職場で人形劇に関する知識や技能を活かし、教えたいと思った。	1
18	子どもといっしょに親子で人形劇を演じて遊び楽しみたいと思った。	1
19	地域の活動やボランティア活動で人形劇に関する知識や技術を活かし、教えたいと思った。	0
20	なかなか観客に喜んでもらえる人形劇ができずに悩んでいたため、問題解決のために参加した。	0
	NA	1

- ・上位1番目の「単純に人形劇に関心があり、やってみたくと思った」、3番目の「なにかやってみたく思っていたときに、たまたま人形劇講座のことを知って参加した」からは、飯田市が人形劇のまちとしてまちづくりに取り組み、人形劇フェスタも40年以上継続開催されており、人形劇が身近にあり日常的なものとしてかかわっている文化的環境があることが伺える。
- ・さらに、4番目「人形劇フェスタや定期公演で演じているアマチュアの人たちを見て、自分もやってみたく、出来るのではと思った」、5番目「人形劇フェスタに、観劇参加だけでなく上演参加してみたく」からも、人形劇フェスタを中心に人形劇を観て楽しむ経験があることが、演じることへの関心への拮がりをもたらしたといえる。
- ・「劇団をつくりたい」「職場で人形劇を演じたい・講座での学びを活かしたい」など、人形劇への学びに関する具象的な目的をもって参加する人はごく少数であった。
- ・上位2番目の「ボランティア活動で人形劇を演じたい」、8番目の「身近な子どもに人形劇を観せたい」など、地域社会活動に参加するツールとしての人形劇の有効性を感じて、人形劇への関心を持ち学び始める人も多い。

②講座に参加して良かったこと

表10：講座に参加してよかったこと

	選択肢	N=43 人
1	人形の操作の仕方を知ることができたこと。	35
2	人形の作り方を知ることができたこと。	33
3	観客が自分たちの人形劇を観て反応したり喜んでくれたこと。	32
4	人形劇の演出や演技指導について知ることができたこと。	31
5	自分たちでつくった人形劇を上演することができたこと。	31
6	いい人形劇センターの職員、文化会館職員などと出会えたこと。	29
7	人形劇をつくり上演できたことで、自分に自信が持てたり、やり終えた満足感を感じられたこと。	25
8	講座などに参加した人たちと知り合いになれたこと。	25
9	劇団のメンバーと協力し合い気持ちをひとつにして取り組む楽しさや充実感を感じたこと。	25
10	自分の人形を作り上げることができたこと。	24
11	じっくり時間をかけて丁寧に作品づくりができたこと。	24
12	講座修了後に、人形劇定期公演をはじめ上演の場が得られたこと。	14
13	センター発行の季刊誌「Dogushi」や、新聞、テレビ、ラジオ、その他マスメディアに取り上げられたこと。	13
14	飯田市外、海外などでの上演の機会を得たこと。	11
15	その他	0

- ・上位にあがったのは、1番目の「人形の操作の仕方を知ることができた」、2番目の「人形の作り方を知ることができた」、4番目の「人形劇の演出や演技指導について知ることができた」など、人形劇をつくりあげるための専門的・具体的な知識や技術の習得に関してであった。
- ・また、人形劇講座では、つくりあげた人形劇の上演の場を最後に設定しているため、人形劇という舞台芸術の完成形が経験できたことで、「観客が自分たちの人形劇を観て反応したり喜んでくれた」「自分たちで作った人形劇を上演することができたこと」「人形劇をつくり上演できたことで、自分に自信が持てたり満足感を感じたりできたこと」を挙げた人も多かった。

③講座を通しての変化・育ち

講座を通しての育ちを判断するための質問の設定にあたっては、藤野（2022）の研究を参考とした。藤野は、文化・芸術は、エンパワメントやQOLの向上に貢献するものであり、人を元気にする力を持っている、自立的に考え動き始めることのできる人が本当の意味での“市民”であり、そういった市民を生み出すことが文化・芸術によるひとづくりであると述べている。このような育ちが促されることで、市民はまちのことを考えるゆとりを持ち、まちづくりにかかわる活動が実現される。

これを参考に、5つのカテゴリー「人形劇の理解」・「人形劇の広がり」・「人形劇のまち飯田への関心」・「人形劇を通した自己実現」・「生活の充実感のたかまり」の観点を設定し、具象的な設問を設定した。

表 11: 講座を通じた自身のひとつづくりの評価

		N=43			
		以前から感じていた	講座を通して感じるようになった	そうは思わない	NA
人形劇の理解	・人形劇の奥深さをより感じるようになった。	5	37	0	1
	・人形劇の芸術としての価値をより高く感じるようになった。	9	33	0	1
	・人形劇は子どもだけのものではなく、子どもから大人まで楽しめる芸術だと感じるようになった。	14	26	1	2
	・観客に自分たちの人形劇を楽しんでもらえるためには、工夫や努力、練習の積み重ねなどが必要だと感じるようになった。	11	29	2	1
人形劇の広がり	・以前に比べて、よりたくさんの人たちに人形劇を楽しんでほしいと思うようになった。	7	33	0	3
	・人形劇を演じる人・劇団が、地域社会にもっと増えるといいと思うようになった。	5	34	1	3
人形劇のまち飯田への関心	・飯田市民としてこのまちに住むことへの喜びを感じるようになった。 (* 飯田市民の方のみ)	3	18	5	17
	・「人形劇のまち」をつくる一人なんだという意識を感じるようになった。	1	26	9	7
	・飯田市が、一年を通してもっと人形劇を楽しめるまちになるといいと思うようになった。	6	25	5	7
	・これからは飯田のまちとかかわって、人形劇を演じたり観劇したりしたいと思うようになった。	9	25	2	7
	・飯田市のまちづくりに関心が持てるようになった。	3	23	9	8
人形劇を通じた自己実現	・人形劇は、自分にとっての自己表現の場だと感じるようになった。	6	28	4	5
	・自分がやりたいと考えたことが実現でき、自信が持てるようになった。	2	30	6	5
	・自分たちの人形劇を喜んでくれる人がいることで、自分の存在価値や生きる喜びを感じるようになった。	6	25	6	6
	・自分の得意分野が活かせて自信が持てた。	4	25	8	6
	・仲間とお互い同士が認め合う信頼関係が強まり、つながりが強まったと感じるようになった。	7	27	3	6
	・自分の生活のなかで、人形劇の優先順位が高くなった。	5	24	9	5
生活の充実度の高まり	・人形劇以外の文化芸術にも関心が広がるようになった。	10	20	9	4
	・生活に張りが出て、楽しいと感じることが増えた。	7	24	5	7
	・劇団の上演活動が増え、地域の人々との出会いやつながりが増えたと感じるようになった。	5	26	7	5
	・人形劇に取り組む自分を見て、家族の自分に対する見方が変わったと感じるようになった。	4	16	18	5
	・人形劇に取り組む自分を見て、知人の自分に対する見方が変わったと感じるようになった。	2	17	19	5
	・人形劇を通して、自分自身が地域社会とつながっていると感じるようになった。	5	22	11	5

- ・受講生の多くが変化を認識し成長したと回答したのは、「人形劇の理解」と市民への「人形劇文化の広がり」への期待であった。次に回答の多かったのは「人形劇を通じた自己実現」であった。人形劇への理解を深め技術を習得したことで観客を喜ばせることができるようになり、観客の喜びを上受け止められたことで、自己実現の達成感を感じることができたといえる。
- ・藤野が述べた、自己実現の喜びから自信を感じられるようになり、さらなる成長の姿としてのまちのことを考える市民への育ちとしては、「生活の充実感の高まり」や「人形劇のまち飯田への関心」の観点のカテゴリーにあげた事項への変化だと考えるが、この2つの観点の関しては他の3つの観点に比べ、変化を認識した受講生はやや少なかった。

7. 講座の成果と課題

成果

- ・センターに課せられた「専門的な人形劇に関する支援」は、多種多様なかつ受講生の幅広いレベルに合わせた講座の開催、また、受講生の参加しやすさを第一に考慮した事務局による講座運営によって実現されたといえる。
- ・「市民や人形劇関係者がわくわくできる取り組み」に対しても、継続的に講座に参加し作品づくりや既存作品のブラッシュアップに積極的に取り組む受講生が数多くいたことからみると、人形劇に対してわくわく感をもち主体的に取り組む市民を育てることができたといえる。

課題

- ・多種多様なさまざまな講座を開催したなかで、9年間の延べ受講者数が111名というのは、多いと言えるのかやや疑問を感じる。人数だけでは評価できないと考えるが、この中には、【人形劇講座】(ユースクラブ)を中学校の人形劇クラブの活動として参加していた生徒も含まれている。
- ・中学校の人形劇クラブへの指導は、今後、クラブ活動の指導を地域に広げることからは需要が大きくなると考える。そのなかで、学校での人形劇活動の支援に対し人形劇センターがどのように取り組むのかを、一度検討しておくべきではないか。教育委員会・飯田文化会館が実施している学校への支援とはどう違うのか、また、地理的な問題で市街地と周辺部の学校・地域で格差が生じていないかなど、考えてみてはどうか。
- ・飯田市、また、いいだ人形劇センターは、「人形劇のまち」づくりを具体的にどう考えているのか。人形劇を通してどのような“ひと”を育てたいと考えるのかが明確ではないように思われる。人形劇の高い技術を持つ市民を育てることが、最終的な目的ではないはずである。5年、10年の中期計画のなかで、具体的な「ひとつづくり」の目標を設定すべきだと考える。
- ・藤野が述べた「自立的に考え、動き出せる市民」を育てるという意識を、人形劇センターでは考えているだろう

か。「自立的に考え、動き出せる市民」の具体像もさまざまに考えられるが、例えば、枚方市の人形劇講座受講修了者が「枚方人形劇連絡会」を結成し、自分たちで講座や人形劇の定期公演を開催したり、「ひらかた人形劇フェスティバル」を誕生させ30年以上開催を継続させ地域の文化として定着させた。また、船橋市でも同じようにアマチュア人形劇団が「船橋地区アマチュア人形劇連絡会」を結成し、枚方と同様に地域での人形劇活動の振興に従事している。こうした人々は、人形劇への取り組みを通し、身の回りの子どもから幅広く子どもの問題をとらえられるようになっていたり、住みよい・育てやすい・育ちやすいまちについて考える意識を持つようになっていた²⁾。他地域の事例を参考に、考えてみるのも良いのではないかと。

- ・そして、育てたい市民について具体化したうえで、その目標達成のために、そのような内容の講座を、そのように開催するかを慎重に検討し実施すべきと考える。
- ・若年層の参加が多かった【フィギュア・シアター講座】【人形アニメーション講座】が、1回の作品制作と発表で終了し、その後は、【人形劇講座】のみとなっている。より幅広い年齢層に人形劇への関心を広げることが目標とするのであれば、どのような人形劇を講座で取り組むかも考えてみるべきではないかと。

註

- 1) 藤野和夫 2020『基礎自治体の文化政策 まちにアートが必要なわけ』水曜社 pp.92 - 100
- 2) 松崎行代 2022「地域の文化活動に取り組む女性たち—アマチュア人形劇団の活動を事例として—」京都女子大学発達教育学部紀要第18号 pp.155 - 166

本調査研究は、以下の論文にまとめた。

- ・松崎行代 2023「いいだ人形劇センター人形劇講座の検証—文化・芸術によるまちづくり・ひとづくりを目指して—」京都女子大学発達教育学部紀要第19号 pp.255 - 262